



平成 26 年 1 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社 新 日 本 科 学
代表者名 代表取締役社長 永田 良一
(コード番号：2395 東証第一部)
問 合 せ 先 代表取締役副社長 関 利彦
(TEL：03-5565-6216)

アストリム株式会社への出資に関するお知らせ

株式会社新日本科学（本社：東京都中央区、社長：永田良一、以下「新日本科学」）は、アストリム株式会社（本社：京都府京都市、社長：桂義元、以下「アストリム」）との間で、昨年 12 月に募集株式引受契約（以下「本契約」）を締結し、出資を実施いたしましたのでお知らせいたします。

記

本契約に基づき、新日本科学は、アストリムによる 240 万円（出資比率：3.9%）の第三者割当増資を引き受けました。今後、新日本科学は基幹事業とする非臨床試験¹⁾ 受託事業で培ったノウハウを活用し、アストリムが取り組んでいる、人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cell、以下「iPS 細胞」）²⁾ 技術を適用した新たな免疫細胞療法³⁾ の研究開発、早期の臨床応用・実用化を支援してまいります。

アストリムは、京都大学再生医科学研究所の河本宏教授および京都大学 iPS 細胞研究所（以下「CiRA」）の金子新准教授の発明による T 細胞⁴⁾ を再生する（若く元気な細胞を分化誘導する）技術をもとに設立された日本発のベンチャーです。この新規技術は、T 細胞培養技術と iPS 細胞技術を組み合わせる事により特定の反応性を持つ若い T 細胞を量産することを可能にするものであり、アストリムはそうにして再生した T 細胞による新たな免疫細胞療法の開発を目指しております。また、当該治療法開発を端緒として、治療用 T 細胞製剤、薬剤検査法開発等により、現代の免疫関連疾患を治療可能な疾患にすることを目指しております。

新日本科学は、基幹事業とする非臨床や臨床の受託試験および開発支援においてノウハウを豊富に蓄積してきており、このノウハウを再生医療分野への支援に積極的に活用する方針です。これまでも独立行政法人理化学研究所との「iPS 細胞等を利用した眼科疾患領域細胞治療の実現に向けた薬効評価法の確立」に係る共同研究、株式会社ヘリオス（旧株式会社日本網膜研究所）との「iPS 細胞由来の網膜色素上皮細胞を用いた加齢黄斑変性移植治療における移植法の検討」に係る共同研究、および CiRA との「iPS 細胞由来神経細胞による脳移植治療実現化に向けた安全性試験法の確立」に係る共同研究を進めてまいりました。今回、新日本科学は、アストリムが推進する免疫細胞療法の研究を高く評価し、再生医療分野における有望技術を保有するアストリムの研究開発のサポートを進めていくことといたしました。なお、本件が当社グループの今期業績に及ぼす影響は現段階では軽微であります。

【ご参考】出資先の概要

(1) 商 号	アストリム株式会社
(2) 所 在 地	京都府京都市
(3) 代 表 者	代表取締役社長 桂 義元
(4) 設立年月日	平成 25 年 10 月 31 日
(5) 株式の種類	非上場

以 上

【用語説明】

¹ 非臨床試験

非臨床試験は、ヒトによる臨床試験の前段階として、ヒトでの安全性を担保する目的で、細胞や実験動物を用いて、新規医薬品や新しい治療法などの効果や副作用を調べる試験を指します。

² iPS 細胞

人工多能性幹細胞（induced pluripotent stem cell : iPS 細胞）は、ヒトの体細胞に少数の遺伝子を組入れて培養することによりつくられた細胞で、様々なヒトの器官や組織に分化する能力を有しており、ほぼ無限に増殖する能力を持ちます。iPS 細胞は、病気の原因解明の研究、新薬の研究開発、移植治療などの再生医療に活用できると考えられています。

³ 免疫細胞療法

T 細胞などの免疫細胞を生体外で人工的に増加させてそれを患者に投与することにより、免疫機能を強化し、がん、感染症、自己免疫疾患などの免疫関連疾患を治療する方法を指します。

⁴ T 細胞

リンパ球の一種で、他の免疫細胞の分化成熟や抗体の生産を誘導したり（ヘルパーT 細胞）、あるいはウイルス感染細胞やがん細胞を直接破壊したり（キラーT 細胞）、といった様々な場面で機能します。